

小牧市中央図書館デジタルサイネージシステム構築業務委託 プロポーザル実施結果

小牧市中央図書館デジタルサイネージシステム構築業務委託プロポーザル審査委員会を設置し、審査を行った結果、業務について技術的に最適な者として、株式会社内田洋行を特定した。

1. 審査結果

業務について技術的に最適な者	株式会社内田洋行
次点者	トーテックアメニティ株式会社

2. 審査日程

項目	日程
実施要綱等の発表	令和2年4月17日
参加表明書等の交付	令和2年4月17日から
質疑の受付	令和2年4月17日から 令和2年5月19日まで
質疑の回答	令和2年5月25日
参加表明書等の提出期限	令和2年6月15日まで
第一次審査	令和2年6月26日
結果通知	令和2年7月1日
第二次審査	令和2年7月22日
結果発表	令和2年7月31日

3. 審査委員会

区分	役職	氏名
委員長	教育部長	伊藤 武志
副委員長	教育部次長	石川 徹
委員	図書館長	山田 久
委員	図書館図書係長	花里 千賀子
委員	図書館図書係主任	神谷 麻依子
委員	図書館図書係主事	近藤 義明

4. 評価基準

評価項目		評価の視点	配分(点)	
			一次	二次
1	機器・コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者にとって見やすい画面であるか ・利用者にとって操作しやすい画面構成であるか ・コンテンツの内容に独自性があり、かつ、優れているか 	50	50
2	運用	<ul style="list-style-type: none"> ・発注者によるコンテンツの修正や追加方法、配信のスケジュール管理などを容易に行うことができる機能があるか 	15	15
3	保守管理	<ul style="list-style-type: none"> ・障害発生時、問い合わせなどに迅速に対応できる管理体制が整っているか 	5	5
4	計画の実現性	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な業務スケジュールか ・業務実施体制が整えられているか ・本業務と同種で類似した受託実績があるか 	15	15
5	コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・運用保守を含めた価格が適正か 	15	15
6	プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・取組意欲、質疑応答、総合評価 	-	20
合 計			100	120

5. 審査の経緯

(1) 第一次審査（令和2年6月26日）

令和2年4月17日に実施要綱等の公告を行い、令和2年6月15日までに参加表明書等の提出があった3者について、審査委員会において評価基準に基づく審査を行い、3者全てを第二次審査への出席要請者とする事とした。

(2) 第二次審査（令和2年7月22日）

審査委員会において参加者によるプレゼンテーション及び各審査委員によるヒアリングを行った。

審査委員会では、その内容に対する評価と、取組意欲等に対する評価を合わせた結果を踏まえて審査を行い、業務について技術的に最適な者（最優秀者）及び次点者各1名を選定した。

6. 各者に対する講評及び総評

(1) 講評

○最優秀者

今回のデジタルサイネージの設置目的をよく理解し、全ての評価視点で高い評価を受けた。特に独自性の面での評価が高く、「古地図と現代の地図の切り替えによる時を超えた想像の旅への提案」や「本市の名所などの詳細情報に関連する郷土資料を表示し、郷土資料コーナーへ誘う提案」など、市民にとっては興味がわきやすく、図書館が小牧の歴史・文化の発信地として機能していくことが期待されるような提案が随所に盛り込まれている。

また、ICT化に対応した新図書館のシステム構築に向けて、確実な業務遂行が見込まれる適正な内容であるなど総合的な評価も高く、業務について技術的に最適な者として選定した。

○次点者

他市図書館での導入実績も十分あり、利用者にとって見やすく、操作しやすい画面構成、業務実施体制や運用などについて高い評価を受けた。しかし、コンテンツ内容の独自性の面が少し弱かったことから総合的な評価としては一歩及ばず、次点者として選定した。

○受付番号1番

全ての評価視点について一定の評価を受けたが、図書館に設置するサイネージという面で利用者にとっての見やすさ、職員の運用のしやすさなどにおいて他の提案者に及ばず、選定には至らなかった。

(2) 総評

提案者の方々には、本プロポーザルの実施に対してご提案いただき、感謝の意を表します。

本プロポーザルは、令和3年3月末に開館予定の小牧市中央図書館にデジタルサイネージを設置するにあたり、利用案内や図書館情報をわかりやすく伝えるとともに郷土資料を発信することにより図書館の利用促進を図ること、また、中心市街地に立地する新図書館としてふさわしいコンテンツを作成し、図書館が小牧に歴史・文化の発信地として機能することを目的に実施した。

各提案者からは、幅広い年代や障がい者の方に配慮した画面構成、図書館の施設案内や新刊本などの図書情報、郷土資料の紹介など、いずれも市が要求した必須とするコンテンツを的確に盛り込んだ提案であった。

そうした中、本プロポーザルにおいては、デジタルサイネージに人を引き付ける工夫や独自コンテンツの提案内容による評価の差によって、最優秀者が特定されたと言える。

最優秀者に特定された方には、スケジュール管理を綿密に行った上で作業を順次進めていただき、図書館に関わる情報提供はもとより、今回の独自提案をいただいた内容など小牧市の魅力を多くの方に知っていただけるコンテンツの作成にご尽力いただきたい。